

認知症ケア特別研修Ⅱ 食事ケア

開催要綱

趣旨 認知症ケアの中でも「食事」に焦点を当て、心身や食行動の変化等や食とは何かについて学ぶとともに、認知症高齢者の豊かな食事を支えるための工夫や方法を学ぶことを目的に開催します。

1. 高齢期の生理機能の低下について、再確認します

高齢者は、認知機能の低下以外にも食事や栄養摂取に関連する身体的機能が低下します。認知症ケアにおける「食事ケア」のエビデンスとなる高齢期の生理機能の低下を中心に学びます。

2. 認知症高齢者における個別の栄養管理の必要性について学びます。

認知症高齢者の食事ケアにあたっては、個別の栄養管理が求められる以外に、摂食を促すための食事準備や正しい食事ケアを学ぶ機会づくりが重要であることを考えます。

3. 認知症高齢者等の口腔ケアの必要性を学びます

加齢に伴う摂食・嚥下障害や認知症の方の口腔ケアについて知識を深めるとともに、多職種で関わることの必要性を学びます。

開催形式

オンライン（オンデマンド配信）

対象

認知症介護に携わる職員（社会福祉施設・社会福祉協議会等の職員）
高齢者福祉施設・事業所の看護師・栄養士など高齢者の食に関心のある方
*その他の公益法人等が経営する社会福祉施設・グループホーム等の職員で学習したい方も受講可能です。

配信期間

令和6年9月10日（火）～10月31日（木）

申込期間

令和6年7月10日（水）～ 8月 8日（木）

研修費用

会員・準会員 5,000円 非会員 12,000円

受講決定

令和6年8月15日（木）までにご連絡します。

時間	研修科目	研修内容
約 90 分	講義 1 「高齢者の栄養と食事について」	<p>加齢に伴い、認知機能以外にも食事や栄養摂取に関連する呼吸器や消化器等の機能も低下します。</p> <p>また、味覚等の感覚が鈍くなるため、塩分過多や喉の渇きに気づきづらくなり、脱水症状を起こしやすくなります。</p> <p>高齢期の生理機能の低下が及ぼす栄養・食事への影響について考えます。</p>
約 90 分	講義 2 「認知機能の低下に伴う低栄養状態の改善と環境整備の必要性」	<p>高齢期の低栄養状態は生活の質（QOL）の低下につながるだけでなく、フレイル（加齢により心身が老い衰えた状態）や認知機能障害のリスクにもなり得ます。</p> <p>ここでは、認知症高齢者における個別の栄養管理の必要性や、摂食を促すための食事準備や食事介助、正しい食事ケアを学ぶ研修体制の環境整備の必要性について学びます。</p>
約 90 分	講義 3 「栄養状態の改善に求められる咀嚼・嚥下等への対応とポイント」	<p>加齢や認知症の症状によって伴う摂食・嚥下機能の低下が招く誤嚥性肺炎や低栄養状態を防ぐため、その要因を限りなく除去することが必要です。</p> <p>ここでは、認知症高齢者の咀嚼や嚥下障害、口腔内乾燥への対応とポイントを踏まえるとともに、多職種で関わることの必要性について学びます。</p>